

2. 景観について

景観とは、眺められる“対象”を示す「景」という文字と、眺める人の“感覚”を表す「観」という文字が組み合わされた言葉です。

本市のような“都市”では、緑と水の自然要素、建築物・工作物などの人工要素の大きくふたつの領域で構成されています。都市そのものは人工的な環境であるため、人工要素のありかたが自然要素に影響をもたらします。

都市における景観は、このような要素の集合体であり、視覚に映る都市の風景が遠くのやまなみなどを含めて、主体になるほか、都市のさまざまな活動や市民生活の全ての範囲におよび、これらを反映した雰囲気、文化的香り、心象風景など視覚を超えた人々の感覚や感性まで含めた領域にも深くかかわるものです。

このように、都市における景観は、都市の人間のさまざまな活動、意識にかかわるトータルなものです。それは地域の自然と人々の生活の、長い年月にわたる営みがつくり出したものです。

景観は、また都市の文化的、歴史的成果として評価されるべきものであり、人々は景観という画像を通して生活者の目と心情で都市をとらえ、全体的な調和の感覚でものごとを評価し、判断しています。このような意味において、都市における景観は、もう少し都市の文化をベースにした、魅力のある都市をつくりたいというまちづくりの問いかけでもあります。

今後の都市整備を進めるにあたっては、その都市に生活する人々がいつまでも住み続けたいと願うとともに、そこに住むことに誇りを持ち、また、その都市を訪れる人々が魅力を感じ、美しく、個性豊かな都市としていくような配慮が必要であり、魅力的な都市をつくるには、ものづくり事業を個別的に行うのでは不十分であり、景観として総合的な配慮が必要です。